

古文ドリル：「む」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「む」の正体（6用法）

古文の助動詞「む」は **1語で6つの意味** を持ちます。識別問題では「どの意味か」を答えるパターンが多い。

用法	訳	判別ポイント	例
① 推量	～だろう	3人称が主語	雨降ら む
② 意志	～う・～よう	1人称が主語	我れ行か む
③ 勧誘	～しないか・（いっしょに）～しよう	2人称が主語・問いかけて誘う（～むや）	君行か む や
④ 適當	～のがよい	2人称が主語・すすめる（こそ～め）	君こそ早く帰ら め
⑤ 婉曲	～ような	体言（こと・ほど・限り など）の前	思は む こと
⑥ 仮定	もし～としたら・～ならば	助詞（に・には・は・も）の前	行か む には

識別の鉄則

- 文中の「む」（連体形）は直後を見る
- 体言の前 → 婉曲（「～ような～」）。「こと・ほど・限り・折」のような名詞の前も婉曲
- 助詞（に・には・は・も）の前 → 仮定（「もし～としたら」）
- 接続助詞「ものを」（～のに）の前は文の切れ目なので、2の人称で決める（我れ帰ら**む**ものを＝意志）
- 文末の「む」は主語の人称を見る（「と」で受ける会話の終わりや、係り結びの結びも文末）
- 1人称 → 意志
- 2人称 → 勧誘（「～むや」と問いかけて誘う）・適當（「こそ～め」などで「～のがよい」とすすめる）
- 3人称 → 推量

9. 疑問・反語の形（や・か・やは・かは・いかでか）でも、1人称なら意志・3人称なら推量。2人称でも、反語や「～だろうか」と様子をたずねる疑問は推量（「～むや」と誘うときは勧誘）
10. **接続** は必ず **未然形**
11. 係り結びで連体形「む」（「ぞ・なむ・や・か」の結び）や已然形「め」（「こそ」の結び）になっても、意味の決め方は同じ

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は、上から順に当てはめて答えを決める手順。
こちらは **試験本番ですばやく答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① まず「直後」を見ろ（婉曲・仮定を一発で切れる）

- 「む」＋ **体言** → **婉曲**（～ような）即答 例：思は**む**こと／あら**む**人／思は**む**ほど（「ほど」は名詞）
 - 「む」＋ **に／には／は／も**（助詞） → **仮定**（もし～としたら） 例：行か**む**には／捨て**む**も
- 直後が体言か、助詞「に・には・は・も」なら、人称を見るまでもなく確定。

コツ② 直後が文末／引用なら 人称 で3分割

直後が句点・「と」（引用）・「や／か」など文末系なら、主語の人称で決める（疑問・反語の形でも、1人称は意志・3人称は推量。2人称でも、反語や様子をたずねる疑問は推量）。 - **1人称（我・吾・予・おのれ）** → **意志**（～う・～よう） - **2人称（君・なんぢ・御身）** → **勧誘・適当**（～しないか／～のがよい） - **3人称・無生物（人・雨・花）** → **推量**（～だろう）

→ 主語省略が多いので、**動作主が誰か** を本文で探るのが鉄則。

コツ③ 2人称の勧誘か適当かは形で判断

- 「～む**や**」「～なむ**や**」「～てむ**や**」と相手に問いかけて誘う／「いざ給へ」「もろともに」と相手を誘って「(いっしょに)～しよう」と言う → **勧誘**（～しないか）
 - 相手だけに「～するのがよい」とすすめる（「**こそ**～め」の形が多い） → **適当**（～のがよい）
- 例：君行か**む**や → 勧誘／君こそ早く帰ら**め** → 適当

コツ④ 「死なむ／往なむ」はナ変＋む

「死なむ」「往なむ」の「な」は、ナ変動詞「死ぬ／往ぬ」の未然形「死な／往な」の一部で、完了（強意）の助動詞「ぬ」ではない。意味はふつうの「む」と同じく人称で決める（我れ死なむ＝死のう〔意志〕／かの人死なむ＝死ぬだろう〔推量〕）。「寝なむ」「散りなむ」のように連用形の下に「な」は完了（強意）「ぬ」の未然形で、「な＋む」は「きっと～だろう・～てしまおう」。

試験本番でのチェック順序

1. 直後が **体言**（「ほど・限り」などの名詞も） → 婉曲（即答）
 2. 直後が **助詞（に・には・は・も）** → 仮定
 3. 主語が **1人称** → 意志
 4. 主語が **2人称** → 問いかけて誘うなら勧誘、「こそ〜め」などですすめるなら適当（反語や、様子をたずねる疑問なら推量）
 5. 主語が **3人称・無生物** → 推量
- この順番で見れば、迷わずに答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・ 主語省略が多い → 動作主を文脈で補う（敬語の有無もヒント。会話の話し手＝1人称、話しかけられている相手＝2人称）
- ・ 「**らむ**」（現在推量）と混同 → 「らむ」は終止形に付く（降る**らむ**）。「降ら**む**」は四段「降る」の未然形「降ら」＋「む」
- ・ 「**けむ**」（過去推量）と混同 → 「けむ」は連用形に付く（行き**けむ**）。「助け**む**」は下二段「助く」の未然形「助け」＋「む」
- ・ 連体形「む」・已然形「め」も意味は同じ（「ぞ・なむ・や・か」の結びの「む」、「こそ」の結びの「め」でも人称で決まる）
- ・ 「**いざ**」（さあ）だけでは決まらない → 誘う相手がなく自分がするなら意志（いざ言間は**む**＝さあ尋ねよう）、「いざ給へ」「もろともに」で相手を誘うなら勧誘（自分も一緒にするので意志とする説もある）
- ・ 「仮定・婉曲」「適当・勧誘」をまとめて教える教科書も多い。このドリルでは、直後が体言なら婉曲・助詞なら仮定、問いかけて誘うなら勧誘・すすめるなら適当、と分けて1つに決める

採点表

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

6用法をそれぞれ識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雨降らむ。

答え：推量 解説：主語が「雨」(3人称)。文末で「～だろう」と推測。「雨が降るだろう」。

Q2. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ行かむ。

答え：意志 解説：主語が「我れ」(1人称)。「私は行こう」。自分の意志を述べる。

Q3. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむや。

答え：勧誘 解説：主語が「君」(2人称)。「あなたは行きませんか」と相手に行動を促す。

Q4. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思はむこと。

答え：婉曲 解説：下に体言「こと」。「思うようなこと／思うであろうこと」と婉曲表現。

Q5. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむには、馬を用意すべし。

答え：仮定 解説：「～むには」は条件節「もし～ならば」。「(もし) 行くなれば、馬を用意するべきだ」。

Q6. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

風吹かむ。

答え：推量 解説：主語「風」(3人称)。「風が吹くだろう」。

Q7. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ寝む。

答え：意志 解説：下二段「寝（ぬ）」未然形「ね」＋「む」。1人称。「私は眠ろう」。

Q8. 次の傍線部（助動詞「む」の已然形）の用法を答えよ。

君こそ、早く帰らめ。

答え：適当 解説：主語は「君」（2人称）。係助詞「こそ」の結びで、「む」が已然形「め」になった形。問いかけずに「～するのがよい」とすすめる「こそ～め」→適当。「あなたこそ、早く帰るのがよい」。

Q9. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春来む頃。

答え：婉曲 解説：カ変「来」未然形「こ」＋「む」＋体言「頃」。「春が来るような頃」。

Q10. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむほどに、文書きてやらむ。

答え：婉曲 解説：「ほど」は「～の間・～のころ」という意味の名詞。「む」の直後が体言なので婉曲（「～むほどに」は仮定ではない）。「あなたが出かけているような間に、手紙を書いて送ろう」。

Q11. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月出でむ。

答え：推量 解説：主語「月」（3人称）。「月が出るだろう」。

Q12. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ知らむ。

答え：意志 解説：1人称。「私は知ろう（知っておこう）」。

Q13. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行か**む**所。

答え：婉曲 解説：体言「所」の前。「行くような所／行く所」。

Q14. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

このこと、母や知ら**む**。

答え：推量 解説：主語「母」（3人称）＋係助詞「や」（疑問）。「や」の結びで「む」は連体形。疑問の形でも主語の人称で決める→推量。「このことを、母は知っているだろうか」。

Q15. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ書か**む**と思ふ。

答え：意志 解説：1人称＋意志＋引用「と」＋「思ふ」。「私は書こうと思う」。

Q16. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

笛吹か**む**人なし。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「笛を吹くような人はいない」。

Q17. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

都へ上ら**む**には、まづ文して知らすべし。

答え：仮定 解説：四段「上る」未然形「上ら」＋「む」＋「には」。「む」の直後が助詞→仮定。「（もし）都へ上るとしたら、まず手紙で知らせるのがよい」。

Q18. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

父帰ら**む**。

答え：推量 解説：主語「父」（3人称）。「父が帰るだろう」。

Q19. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ問はむ。

答え：意志 解説：1人称。「私は尋ねよう」。

Q20. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君も食はむや。

答え：勧誘 解説：2人称＋「や」（疑問）。「あなたも食べませんか」と勧める。

基礎編 / 20

【第2部】 標準編（Q21～Q50）

文脈・係り結び・引用構文を含む応用問題。

Q21. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

言はむことを、まづ聞け。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「言うようなことを、まず聞け」。

Q22. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ歌詠まむと思ひ定めつ。

答え：意志 解説：1人称＋「と」＋「思ひ定めつ」（決心した）。「私は歌を詠もうと決心した」。

Q23. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春雨や降らむ。

答え：推量 解説：「や」（疑問）＋「む」（連体形、結び）。主語が無生物（春雨）→ 推量。「春雨は降るだろうか」。

Q24. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ、我れまづ参らむ。

答え：意志 解説：「いざ」（さあ）は人を誘うときにも使うが、ここは誘う相手がなく、主語は「我れ」（1人称）→意志。「さあ、私がまず参上しよう」。

Q25. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行かむ人、馬を用意せよ。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前→婉曲。「行くような人は、馬を用意せよ」。

Q26. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

鳥鳴かむ山に、いざ行かむ。

答え：婉曲 解説：体言「山」の前→婉曲。「鳥が鳴くような山に、さあ行こう」。

Q27. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君も琴弾かむやと、人問ふ。

答え：勧誘 解説：引用の中の主語は「君」（2人称）。「～むや」と相手に問いかけて誘う→勧誘。「『あなたも琴を弾きませんか』と、人が尋ねる」。

Q28. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

夕月夜出でむ頃、参るべし。

答え：婉曲 解説：体言「頃」の前。「夕月夜が出るような頃に、参上するべきだ」。

Q29. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

父知り給はむ。

答え：推量 解説：四段「知る」連用形「知り」＋尊敬の補助動詞「給ふ」未然形「給は」＋「む」。主語が父（3人称）で尊敬付き。「父はご存じだろう」。

Q30. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れも、かの花を見む。

答え：意志 **解説：**上一段「見る」未然形「見」＋「む」。主語「我れ」（1人称）→意志。「私も、あの花を見よう」。

Q31. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

かかる雨に、人行かむかは。

答え：推量の反語 **解説：**「かは」（反語）。主語「人」（3人称）→推量。「こんな雨の中を、人が行くだろうか、いや行くまい」。

Q32. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れも往なむ。

答え：意志 **解説：**「往（い）な」ナ変「往ぬ」未然形＋「む」。1人称。「私も立ち去ろう」。

Q33. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月隠れむ夜。

答え：婉曲 **解説：**体言「夜」の前。「月が隠れるような夜」。

Q34. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

親のために、命を捨てむも惜しからず。

答え：仮定 **解説：**下二段「捨つ」未然形「捨て」＋「む」＋係助詞「も」。「む」の直後が助詞→仮定。「親のためなら、（もし）命を捨てるとしても惜しくはない」。

Q35. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

旅に出でむ日を、まづ父に告げよ。

答え：婉曲 **解説：**下二段「出づ」未然形「出で」＋「む」＋体言「日」→婉曲。「旅に出るような日を、まず父に告げなさい」。

Q36. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

今宵は、ここに宿りたまひな**む**やと、皆、客人に問へり。

答え：勧誘 **解説：**四段「宿る」連用形「宿り」＋尊敬の補助動詞「たまふ」連用形「たまひ」＋完了（強意）「ぬ」未然形「な」＋「む」＋「や」。尊敬語が付き、主語は問われている「客人（まらうと）」（2人称）。「～なむや」は相手に問いかけて誘う形→勧誘。「『今夜は、ここにお泊まりになりませんか』と、皆が客に尋ねた」。

Q37. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

風吹か**む**音、いと寂し。

答え：婉曲 **解説：**体言「音」の前。「風が吹くような音は、とても寂しい」。

Q38. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ住ま**む**所、いまだ定めず。

答え：婉曲 **解説：**体言「所」の前。「私が住むような所は、まだ決めていない」。

Q39. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春来**む**やと、人ごとに問ふ。

答え：推量の疑問 **解説：**カ変「来」未然形「こ」＋「む」＋係助詞「や」（疑問）。主語が無生物（春）→推量。「春が来るだろうか、と人ごとに尋ねる」。

Q40. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

行か**む**には、誰か供をすべき。

答え：仮定 **解説：**「～むには」は「もし～としたら」（仮定）。「誰か」の係助詞「か」の結びで、サ変「す」の終止形＋助動詞「べし」の連体形「べき」。「（もし）行くとしたら、誰がお供をするのがよいか」。

Q41. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ食は**む**。

答え：意志 解説：1人称。「私は食べよう」。

Q42. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雨止まむ。

答え：推量 解説：主語「雨」(3人称)。「雨が止むだろう」。

Q43. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君も食はむかし。

答え：適当 解説：主語は「君」(2人称)。問いかけ(や)でも「いっしょに」と誘うのでもなく、相手に「～するといいよ」とすすめる→適当。「かし」は念押し(～よ)で、それだけでは決まらない。「あなたも食べるといいよ」。(Q20「君も食はむや」は問いかけて誘うので勧誘)

Q44. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ書かむものは、人に見せじ。

答え：婉曲 解説：「もの」は名詞(下に「は」が付いている)。体言「もの」の前→婉曲。「私が書くようなものは、人に見せまい」。(Q92の「ものを」は接続助詞(～のに)で、ここの名詞「もの」とは別)

Q45. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ給へ、参らむ。

答え：勧誘 解説：「いざ給へ」(さあ、いらっしゃい)と相手を誘って、「(いっしょに)参りましょう」と言う→勧誘。(話し手も一緒に参るので意志とする説もある)

Q46. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

夢かと思はむほどの心地ぞする。

答え：婉曲 解説：「ほど」は「程度」という意味の名詞。「む」の直後が体言なので婉曲。「夢かと思うような(ほどの)気持ちがする」。

Q47. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

笛吹か**む**こと、難し。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「笛を吹くようなことは、難しい」。

Q48. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

人々ためらふ。我れや先に言ひ出で**む**。

答え：意志 解説：主語「我れ」（1人称）＋係助詞「や」（疑問）。「や」の結びで「む」は連体形。疑問の形でも主語の人称で決める→意志。「人々がためらっている。私が先に言い出そうか」。

Q49. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ往な**む**と、思ひ立つ。

答え：意志 解説：「往な」ナ変未然＋「む」＋引用「と」。1人称。「私は立ち去ろう、と思いつ」。

Q50. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

心知ら**む**人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「心を知っているような人」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

敬語・係り結び・引用が複雑に絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

中宮、「文書か**む**」と仰せらる。

答え：意志 解説：「文書かむ」は中宮のことば。話し手（中宮）が自分のすることを言っている＝1人称→意志。「仰せらる」は「おっしゃる」。「中宮が『手紙を書こう』とおっしゃる」。

Q52. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ参らむ。されど、いまだ装束も整はず。

答え：意志 解説：1人称。「私は参上しよう。しかし、まだ身支度も整っていない」。

Q53. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春や来む、と心に待つ。

答え：推量の疑問 解説：「春」が主語（無生物）＋係助詞「や」（疑問）＋カ変「来」未然形「こ」＋「む」（連体、結び）。「春が来るだろうか、と心の中で待つ」。

Q54. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

宮はいつか帰りたまはむと、人々待ちきこゆ。

答え：推量 解説：尊敬の補助動詞「たまふ」未然形「たまは」＋「む」。「いつか」の係助詞「か」の結びで「む」は連体形。主語は「宮」（3人称）→推量。「『宮様はいつお帰りになるだろうか』と、人々はお待ち申し上げる」。

Q55. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にあらむ。

答え：推量 解説：「に」は断定「なり」の連用形、「あら」はラ変「あり」の未然形＋「む」。主語は話題の人（3人称）→推量。「（その人は）並々ならぬ宿縁の人であろう」。

Q56. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ仕うまつらむと申す。

答え：意志 解説：1人称＋意志＋引用「と」＋謙譲「申す」。「私はお仕え申し上げよう、と申し上げます」。

Q57. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

笛の音絶えむ夜。

答え：婉曲 解説：体言「夜」の前。「笛の音が絶えるような夜」。

Q58. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

宮は、この絵を上を御覧ぜさせたまはむ。

答え：推量 解説：サ変「御覧ず」未然形「御覧ぜ」＋使役「さす」連用形「させ」＋尊敬の補助動詞「たまふ」未然形「たまは」＋「む」。「御覧ぜさす」は「(人に) ご覧に入れる」。主語は「宮」(3人称)→推量。「宮様は、この絵を帝にお見せになるだろう」。

Q59. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

嘆かむこと、目に見ゆ。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。「嘆くようなことが、目に浮かぶ」。

Q60. 次の傍線部（助動詞「む」の已然形）の用法を答えよ。

この文の返事、御身こそ書かめ。

答え：適当 解説：主語は「御身」(2人称＝あなた)。「こそ」の結びで「む」が已然形「め」になった「こそ～め」で、相手に「～するのがよい」とすすめる→適当。「この手紙の返事は、あなたこそ書くのがよい」。

Q61. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

をかしからむ物語あらば、見せたまへ。

答え：婉曲 解説：形容詞「をかし」未然形「をかしから」＋「む」＋体言「物語」→婉曲。「おもしろいような物語があれば、見せてください」。(仮定を表すのは「あらば」(未然形＋ば)のほう)

Q62. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

かの聖は、明日、山深く分け入らむ。

答え：推量 解説：主語「かの聖」(3人称)→推量。「あの聖は、明日、山深く分け入るだろう」。

Q63. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

物思ふ我れも、いまは忘れな**む**と思ふ。

答え：意志 **解説：**下二段「忘る」連用形「忘れ」＋完了（強意）「ぬ」未然形「な」＋「む」＋引用「と」＋「思ふ」。1人称で、「～むと思ふ」と自分の思いを言う形→意志。「物思いに沈む私も、もう忘れてしまおうと思う」。

Q64. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雨いやまさら**む**。

答え：推量 **解説：**副詞「いや」（＝ますます）＋四段「増さる」未然形＋「む」。「雨がますますひどく増すだろう」。

Q65. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

この文、かの人のもとへ持て行きて**む**やと、童に言ふ。

答え：勧誘 **解説：**四段「持て行く」連用形「持て行き」＋完了（強意）「つ」未然形「て」＋「む」＋「や」。主語は話しかけられている「童」（2人称）。「～てむや」は相手に「～してくれないか」と問いかけて誘う形→勧誘。「『この手紙を、あの人のところへ持って行ってくれないか』と、召し使いの子に言う」。

Q66. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

唐土に渡ら**む**人、希にあらむ。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」の前→婉曲。「中国に渡るような人は、めったにいないだろう」（後の「あらむ」の「む」は推量。傍線部ではない）。

Q67. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

老い**む**身、いかでか若く保たむ。

答え：婉曲 **解説：**上二段「老ゆ」未然形「老い」＋「む」＋体言「身」→婉曲。「老いていくような身を、どうして若いまま保てようか」。

Q68. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

夜も更けぬ。我れは、いま帰らむかし。

答え：意志 解説：主語「我れ」(1人称)。「かし」は念押し(～よ)。1人称→意志。「夜も更けた。私は、もう帰るとしよう」。(Q43のように主語が2人称で、相手にすすめるなら適当)

Q69. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れは、思はむこと言はむ。

答え：前の「む」＝婉曲、後の「む」＝意志 解説：-「思はむこと」：体言「こと」の前→婉曲「思うようなこと」-「言はむ」：主語「我れ」(1人称)→意志「言おう」全体：「私は、思うようなことを言おう」。

Q70. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

心知らむ人にこそ、見すべけれ。

答え：婉曲 解説：「知らむ人」＋係助詞「こそ」＋助動詞「べし」已然形「べけれ」(こその結び。已然形で結ぶのが原則)。「心を知っているような人にこそ、見せるべきだ」。

Q71. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れもまた仏に祈らむ。

答え：意志 解説：1人称＋意志。「私もまた仏に祈ろう」。

Q72. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

君行かむ所、いづくぞ。

答え：婉曲 解説：「行かむ所」：体言「所」前→婉曲「行くような所」。「あなたが行くようなところは、どこか」。

Q73. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ、いまさら嘆かむやは。

答え：意志の反語 **解説：**「やは」(反語)。主語「我れ」(1人称) → 意志。「私は、今さら嘆こうか、いや嘆くまい」。

Q74. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

鳥鳴か**む**朝、目覚めなむ。

答え：婉曲 **解説：**体言「朝」の前→婉曲。「鳥が鳴くような朝には、目を覚ましてしまおう」。

Q75. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

人の問は**む**には、ありのままに答へよ。

答え：仮定 **解説：**四段「問ふ」未然形「問は」+「む」+「には」。「む」の直後が助詞→仮定。「(もし) 人が尋ねるとしたら、ありのままに答えなさい」。

Q76. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

人、わが心を知ら**む**やは。

答え：推量の反語 **解説：**四段「知る」未然形「知ら」+「む」+「やは」(反語)。主語「人」(3人称) → 推量。「人が私の心を知っているだろうか、いや知るまい」。

Q77. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

仏に祈ら**む**人。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」前。「仏に祈るような人」。

Q78. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ参りたまへと言へど、我れ参ら**む**やは。

答え：意志の反語 **解説：**「いざ参りたまへ」は相手のことば。傍線部の主語は「我れ」(1人称) + 「やは」(反語) → 意志。「『さあ、参上なさい』と言うけれども、私が参上しようか、いや参上するまい」。

Q79. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

鳥や鳴か**む**、と耳を澄ます。

答え：推量 **解説：**「鳥」(3人称) + 「や」(疑問) + 「む」(連体結び)。「鳥が鳴くだろうか、と耳を澄ます」。

Q80. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ寝な**む**。

答え：意志 **解説：**「寝(ね)」下二段連用+完了「ぬ」未然「な」+「む」。1人称。「私は眠ってしまおう」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

唐土に渡ら**む**人、すくなから**む**。

答え：推量 **解説：**「すくなから」(形容詞「すくなし」未然形) + 「む」。「中国に渡るような人は、少ないだろう」。

Q82. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

月見**む**人は、いざ給へ。

答え：婉曲 **解説：**上一段「見る」未然形「見」+「む」+体言「人」→婉曲。「いざ給へ」は「さあ、いらっしゃい」。「月を見るような人は、さあ、いらっしゃい」。

Q83. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ、なほ生かさ**む**と思ふ。

答え：意志 **解説：**「生かさ」四段「生かす」未然+「む」+引用「と」+「思ふ」。1人称。「私は、まだ生かそうと思う」。

Q84. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春の野に咲かむ花、いまだ知らず。

答え：婉曲 解説：体言「花」前。「春の野に咲くような花を、まだ知らない」。

Q85. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

この雨に、花はみな散りなむ。

答え：推量 解説：四段「散る」連用形「散り」＋完了（強意）「ぬ」未然形「な」＋「む」。主語「花」（3人称）→推量。「な＋む」は「きっと～だろう」。「この雨で、花はきっとすっかり散ってしまうだろう」。

Q86. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

父の御志、いかでか忘れむ。

答え：意志の反語 解説：「いかでか」（＝どうして）＋「忘れむ」（1人称・意志）。「父のお志を、どうして忘れようか、いや忘れまい」（反語）。

Q87. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

物のあはれを知らむ人にこそ。

答え：婉曲 解説：「知らむ人」体言前＋係助詞「こそ」＋結び省略（「見すべけれ」など）。「物のあわれを知っているような人にこそ（見せるべきだ）」。

Q88. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

風吹かむ夕は、なほものあはれなり。

答え：婉曲 解説：体言「夕」の前→婉曲。「風が吹くような夕方は、いつそうしみじみとした趣がある」。

Q89. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

敵はやがて来む。我れはここにて死なむ。

答え：前の「む」＝推量、後の「む」＝意志 **解説：** - 「来む」：カ変「来」未然形「来（こ）」＋「む」。主語「敵」（3人称）→ 推量「すぐに来るだろう」 - 「死なむ」：ナ変「死ぬ」未然形「死な」＋「む」。主語「我れ」（1人称）→ 意志「死のう」（「な」は動詞の一部で、完了「ぬ」ではない） 全体：「敵はすぐに来るだろう。私はここで死のう」。

Q90. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘まむ人、いまだ来ず。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」前。「春の野に若菜を摘むような人が、まだ来ない」。

Q91. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

いざ、もろともに参らむかし。

答え：勧誘 **解説：**「いざ」（さあ）「もろともに」（いっしょに）と相手を誘い、「かし」で念を押す→勧誘。「さあ、いっしょに参上しましょうよ」。（話し手も一緒に参るので意志とする説もある）

Q92. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れは都へ帰らむものを、人の留むるぞ憂き。

答え：意志 **解説：**四段「帰る」未然形「帰ら」＋「む」＋接続助詞「ものを」（～のに）。「ものを」は接続助詞で、名詞ではない。接続助詞の前で文がいったん切れるので、文末と同じく主語の人称で決める。主語「我れ」（1人称）→意志。「私は都へ帰ろうと思うのに、人が引き止めるのがつらい」。（「憂き」は係助詞「ぞ」の結びで連体形）

Q93. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

人皆死にたるに、我れひとり生かむやは。

答え：意志の反語 **解説：**四段「生く」未然形「生か」＋「む」＋「やは」（反語）。主語「我れ」（1人称）→意志。「人々が皆死んでしまったのに、私一人が生きようか、いや生きまい」。

Q94. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

命あらむ限りは、この恩を忘れじ。

答え：婉曲 解説：ラ変「あり」未然形「あら」＋「む」＋体言「限り」（名詞）→婉曲。「命があるような限りは（生きている限りは）、この恩を忘れまい」。

Q95. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

思はむ人。

答え：婉曲 解説：四段「思ふ」未然形「思は」＋「む」＋体言「人」。「思っているような人」（婉曲）。

Q96. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

我れ笛吹かむ、と言ひて、笛を取り出づ。

答え：意志 解説：1人称＋意志＋引用「と」。「『私が笛を吹こう』と言って、笛を取り出す」。

Q97. 次の傍線部（助動詞「む」の已然形）の用法を答えよ。

月清けき夜なり。君こそ、歌詠みたまはめ。

答え：適当 解説：主語は「君」（2人称）。尊敬の補助動詞「たまふ」未然形「たまは」＋「む」の已然形「め」（係助詞「こそ」の結び）。「こそ～め」で相手に「～するのがよい」とすすめる→適当。「月の清らかな夜だ。あなたこそ、歌をお詠みになるのがよい」。

Q98. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

中納言、「春の山の花を、宮にも見せたてまつらむ」とて、一枝折りたまふ。

答え：意志 解説：「見せたてまつらむ」は中納言のことば。下二段「見す」連用形「見せ」＋謙讓の補助動詞「たてまつる」未然形「たてまつら」＋「む」。話し手（中納言）が自分のすることと言う＝1人称→意志（「たてまつる」は宮への敬意）。「中納言は、『春の山の花を、宮様にもお見せ申し上げよう』と言って、一枝お折りになる」。

Q99. 次の傍線部「む」の用法を答えよ。

雪の降らむ折は、必ず文をおこせよ。

答え：婉曲 解説：四段「降る」未然形「降ら」＋「む」＋体言「折」→婉曲（「は」は「折」に付いた助詞）。「雪が降るような時には、必ず手紙をよこしなさい」。

Q100. 次の傍線部を識別せよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へ**けめ**、これらの人は、語りも伝ふべからず。

答え：過去推量の助動詞「けむ」の已然形 **解説：**「けめ」で1語（「け」＋「め」ではない）。連用形に付く過去推量の助動詞「けむ」が、係助詞「こそ」の結びで已然形になった形（「伝へ」は下二段「伝ふ」の連用形）。「～けめ、」と文が切れずに続くので逆接（～ただろうが）。「中国の人は、これをすばらしいと思うからこそ、書き留めて後世にも伝えたのだから、この国の人は、語り伝えることもしないだろう」。徒然草・第十八段。※「む」と「けむ」は別の助動詞（「む」は未然形、「けむ」は連用形に付く）。

入試レベル / 20

合計 / 100

あとがき

「む」の用法識別の核心： - **文中の「む」は直後**で婉曲・仮定を見抜く（体言の前＝婉曲、助詞「に・には・は・も」の前＝仮定） - **文末の「む」は主語の人称**で決める（1＝意志、2＝勧誘・適当、3＝推量） - **係り結び**で連体形「む」・已然形「め」が文末に来る場合あり（意味の決め方は同じ）

「む」「むず」「けむ」「らむ」は古文の推量系の代表選手。違いを整理： - む：未来推量「～だろう」 - むず（んず）：「む」とほぼ同じ意味（推量・意志など）。会話文に多い - けむ：過去推量「～ただろう」 - らむ：現在推量「（今ごろ）～ているだろう」

本ドリル100問で「む」のすべての用法に触れています。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太